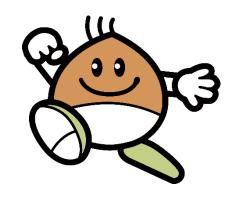
# 栗東市認知症初期集中支援チームの活動状況および今後の方向性について



## 目的

## 栗東市認知症初期集中支援チームとは

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるように、 認知症の人やその家族に対する初期支援を包括的かつ集中的に行い、本人の視点(本人の思いや やりたいこと、これまでにしてきたこと等)を大事にした、本人らしい暮らしの実現に向けた支援 をチームで考え、様々な方法でアプローチをするため、「認知症初期集中支援チーム」を配置する とともに、早期診断、早期対応に向けた支援体制を構築する。

## 概要

医療・介護の専門職で構成される「認知症初期集中支援チーム」が認知症(疑いを含む)の高齢者や家族を訪問し、認知機能や身体症状、生活状況の確認を行い、チーム員会議でのアセスメント、方向性に基づき、本人・家族に寄り添った支援や個々に応じた必要なケア等に繋いでいきます。

#### 【支援対象者】

- 40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で、次のいずれかに該当する者。
- ①医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する者
  - (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない者
  - (イ) 継続的な医療サービスを受けていない者
  - (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない者
  - (エ) 診断されたが介護サービスが中断している者
- ②医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している者

## 業務の流れ

## 各圏域地域包括支援センタ-

依頼

引継ぎ 連

家族、地域住民、 ケアマネジャー、 医療機関等より 相談

対象者の把握 会議は毎月定例で開催 認知症初期集中支援チーム

#### チーム員会議

対象とするかどうか、支援方針、内容の検討

初期集中支援 ※概ね6か月

チーム員訪問後、把握した 情報をもとにチーム員会議 で今後の支援等を検討

初期集中支援の終了

モニタリング

本人、家族への訪問や関係 者への聞き取りで確認

#### 初期集中支援の実施

- ・認知機能、身体状況、生活状況等のアセスメント
- ・認知症に関する正しい知識の情報提供
- 医療機関への受診勧奨(必要時、鑑別診断)
- ・認知症状に応じた対応方法の助言、心理的サポート
- ・適切な介護サービスの利用の勧奨
- 生活環境の改善

チーム員会議で支援終了を決定する

引継ぎ

4

連携

#### 関係機関等

ケアマネジャー かかりつけ医 医療機関 介護事業者 訪問看護ステーショ ン等

モニタリング

- ・支援終了後、2か月以内に実施
- 医療や介護サービス等の必要な支援が継続されているか、新 たな問題が発生していないか確認し、必要時助言対応実施
- <u>・家族の負担感が改善しているか、評価をする</u>

## 活動実績と訪問回数

	H29度 (9月開始)	H30年度	R元年度	R2年度
	支援対象者	支援対象者	支援対象者	支援対象者
栗東圏域	0	1 (0)	1 (1)	(0)
栗東西圏域	1	5 (1)	2 (1)	2 (1)
葉山圏域	2	2 (2)	1 (0)	1 (0)
合計	3	8 (3)	<b>4</b> (2)	<b>4</b> (1)
延支援対象者 訪問回数	13回	27回	10回	18回
専門職 訪問回数	看護師3回	看護師16回	看護師6回 作業療法士2回	作業療法士10回
包括訪問回数				

※()内の数字は前年度からの継続件数

## 活動実績と訪問回数

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	支援対象者	支援対象者	支援対象者	支援対象者
栗東圏域	2 (0)	5 (1)	<b>4</b> (2)	1 (1)
栗東西圏域	1 (0)	2 (1)	2 (1)	2 (1)
葉山圏域	2 (1)	2 (1)	2 (1)	0
合計	5 (1)	9 (4)	8 (4)	3 (2)
延支援対象者 訪問回数	20回	67回	34回	6回
専門職 訪問回数	作業療法士10回	作業療法士9回	作業療法士10回	作業療法士1回
包括訪問回数		56回	24回	5回

※()内の数字は前年度からの継続件数

# チーム員支援から見えてきた課題と成果

R5年度の課題	方向性	R6年度の実践状況
・地域への認知症理解に向けた支援	・既存の認サポ等の内容も精査し、本人の行き つけの商店等には具体的な対応方法を提案で きるようなメニューも検討していく。	
・認知症本人の思いを中心においた トータル的なアセスメント	・より幅広い視点で本人の生活状態を捉えられるよう、作業療法士を中心にチーム員会議の場でICF指標の活用を進めていく。	・作業療法士でアセスメントを行い、 ICF指標を活用

R5年度・6年度の課題	R7年度の方向性	
■ =2 +11)元 <i>4</i> 11 fB 「E 「D	<ul><li>・ケアマネジャーへの周知に向けたケース集約</li><li>・初期ケースの把握に向けた包括の相談窓口機能の拡充</li></ul>	